

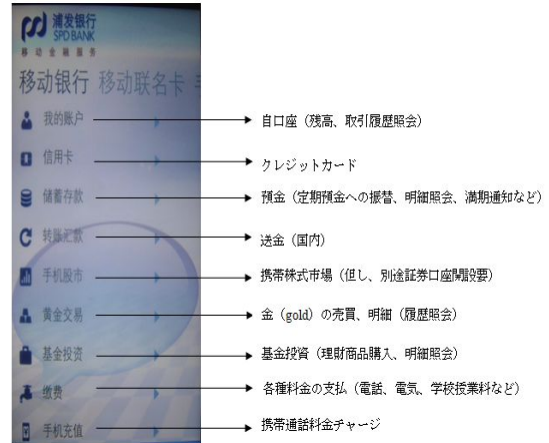
瀋陽駐在員事務所

【居民身分証】

最近、日本でも「フィンテック」がしばしばメディアに登場しますが、中国における個人の銀行取引についてご紹介します。

1. 「普通預金通帳」は存在しない。（定期預金は希望すれば発行可）
2. 以下の取引が、スマートフォン上の操作で完結します。

- (1) 電気、電話、学校授業料などの支払
- (2) 同一行内、他行振込（他人名義口座あてを含む）
- (3) 普通預金から定期預金への振替及び活動中明細の閲覧
- (4) 海外から送金された外貨建被仕向送金の人民元転
- (5) 残高照会、取引明細照会
- (6) 理財商品の購入及び活動中明細照会
- (7) 株式の購入・売却（事前登録要）
- (8) 支付宝（LINE PAY に類似）など第三者決済用のチャージ、登録した銀行口座連動での利用額引落とし



以上の通り、用途が大変多岐に渡る為、個人顧客が銀行窓口へ出向くことは殆どありません。

また、最近では第三者決済機関に対抗するため、個人顧客のモバイル取引で他行振込手数料をゼロにするところもできました。一定額以上に引き落とし（ATMでの現金引出しを含む）があると、自動的に利用情報がショートメッセージで送信され、悪用や盗用の確認を促す仕組みにもなっています。

大変便利ではありますが、スマートフォンの盗難、紛失、破損が極めて深刻なトラブルになってしまう一面もあります。

南 敏律

ユジノサハリンスク駐在員事務所

【春を祝うお祭り】

3月7日～13日、ロシアは美味しい一週間でした。各家庭ではプリニー（ロシア風クレープ）を作って食べます。プリニーの丸い形が太陽を象徴し、寒くて長い冬に別れを告げ、春を迎えるお祭りで、「マースレニツァ」と言います。o(バター)が語源で「バター祭り」という日本語訳もあります。それぞれの日に名前や風習があります。月曜日は「マースレニツァのお出迎え」、水曜日は「奥さんの実家でお母さんがご馳走する」、木曜日は「遊びの日」、金曜日は「奥さんのお母さんをおもてなしする」など、伝統的なロシアの生活と社会・家族関係を反映しています。最終日の日曜日は「マースレニツァの見送り」、冬を象徴する藁でできた案山子を燃やします。「赦しの日曜日」とも呼ばれ、ケンカした人と仲直りするには一番良い日です。親戚や友達がお互いに「何か悪いことがあったらごめんなさい」と言います。美味しい食べ物を味わいながら、歴史と文化の知識も深まるので、みなさん、来年のマースレニツァの時期に、ぜひロシアに来て、一緒に春をお祝いしましょう！



プリニー（ロシア風クレープ）



P.S. 3月8日は、国際婦人デーという大切な一日(男性にとっては大変な日)でもありました。その写真もご紹介します。

マリア・ヤロヴェンコ

ウラジオストク駐在員事務所

北海道ガーデンの視察会・試食会について

2月29・3月1両日、沿海地方スラジェフカ村(ダリネポストーチノエ社)及びウラジオストク市(ウラジオストク日本センター)では温室施設栽培プロジェクト「北海道ガーデン」の視察会・試食会がそれぞれ行われました。このプロジェクトは、北海道庁が進めている「ロシア極東地域ビジネス展開モデル事業委託業務」(受託：道銀地域総合研究所)の一環で実現されており、主催の北海道庁の他、経済産業省北海道経済産業局、アド・ワン・ファーム等の民間企業のほか、道銀地域総合研究所も同事業の受託者として参加しました。今までは、日本産の種を用い、ロシア極東の温室施設で野菜を試験的に栽培する事例はなかっただけに、成果を上げられるかどうかとの心配も声もありましたが、栽培対象の野菜3種類(ラディッシュ、ミツバ、フリルレタス)は日本側が想定していたよりも早い成長を見せ、今後の北海道発の農業技術や寒冷地技術の展開ポテンシャルが非常に大きいことが確認できました。

今回のプロジェクトは小規模で、あくまでロシア極東における北海道発の技術展開の第一歩にすぎないかもしれませんが、今後の北海道の農業関連企業のロシア極東等への進出、様々な日露共同プロジェクトの実現、日系企業による投資活動に向けた貴重な実績となることに間違いありません。



イワン・モズゴヴォイ

カシコン銀行

「国際都市バンコクにおける北海道の挑戦」

バンコクに赴任して2年が経過しました。バンコクの街はわずか2年の間で急速に変化しています。次々に建設される大型商業施設、スカイトレインや地下鉄の通勤ラッシュの激化、淘汰と出店を繰り返す日本食レストラン等、変化の時間軸が凝縮されて、早送りで見ているような感覚です。

世界中のあらゆるサービスが集約され、希望すればなんでもかなう都市バンコク。この街に北海道企業の可能性はあるのか、ただそれだけを悩みに悩み続けた2年間でした。答えはまだありません。そしてこれからも無いのだろうと思います。発展を強く望み、希望を叶えるために行動を起こし、努力を重ね、成し遂げた時にこそ、北海道は確かに可能性があったのだと、後からわかるものなのでしょう。

北海道の可能性とは国際社会が周りから創りあげていくものではありません。北海道企業を担う一人一人が、世界を見据え、一つ一つ努力して創り上げていくものです。海外進出は第二の創業と言われるほど、困難です。北海道の世界への挑戦はこれからです。



市内を走るスカイトレイン



タイ人で賑わう北海道物産展
(バンコク伊勢丹)

伊藤 彰浩

日中経済協会 北京事務所 札幌経済交流室

「北京首都国際空港」と「北京大興国際空港」

北京首都国際空港は中国・北京の東北に位置する中国最大の空港で、1958年の第1ターミナル開港後、1999年に第2ターミナル、2004年に第3ターミナルを建設し、その規模を順次拡張。2014年には年間利用客数で世界第2位の規模となるなど、同空港の処理能力は既に限界に達しているとも言われてきました。しかし実際は、アメリカのウェブサイト「Lets Fly Cheaper」で、同空港が世界で最も遅延便数の多い空港として発表されています。私も北京赴任後、出張などで同空港を何度も利用しましたが、まず時間通りに離陸することはなく、30分程度遅れるのは日常茶飯事です。

この状況を解決するため、2019年に北京南部到北京大興国際空港が新たに開港予定です（昨年末から杭打ちの基礎工事がスタート）。現在世界1位にランキングされている米国ロサンゼルス空港の年間利用客数9,600万人に変化が生じない限り、同新空港は2040年までに年間利用客数が1億人を超える世界最大規模の空港になると予想されています。

GDPをはじめ、今後、いくつかの世界記録を更新していくであろう中国。そんな大国の首都北京に、一度足を運んでみてはいかがでしょうか？



中国国内の空港にて
安全検査のボディチェックは
念入りに行われる

小笠原 宅麻